

これまでの検討委員会における意見の反映（第 5 回）

第 5 回 検討委員会

平成 26 年 11 月 14 日（木）

■ 目指すべき方向性について

意見	考え方	計画への反映箇所
資料 4 の P49 都市交通の将来像の「道路交通」は、公共交通、歩行交通等、他の全ての交通分野を含むため、「自動車交通」が正しいのではないか。	「道路交通」では、自動車に加え、災害対策等様々な視点が含まれているため、自動車に絞らず「道路交通」の表現として残す。	2-2 道路交通の目指すべき姿 ・記述は変更しない

■ 施策内容について

意見	考え方	計画への反映箇所
「災害に強いまちづくり」は、前回から変わったところと認識しているが、新たに加わったのか。	これまでの計画は道路整備が中心であったが、東日本大震災等の経験などから、災害対策に交通面からどのように支えていくかを考える必要性が生じた。また、地域防災計画も策定しているため、これらの内容等も含めて新たに記載した。	基本目標 4 「災害に強いまちを支える交通環境の充実」
「みなし道路」は、現在の書き方では進まないのではないか。私権を抑制するなどより強く打ち出していったらどうか。	「みなし道路」のあり方など、現時点では十分な議論がされていないため、具体的な対応進捗方策については、将来のまちづくりのあり方をふくめ、機会をとらえ研究していく。	第 4 章 生活道路の整備・維持管理 ・継続的に検討
小学校の通学路における安全性を高める目的で、防犯カメラの設置も記載できないか。	本市の防犯カメラの設置は教育施策として進めている。本計画の範疇を超えているため、本計画では取り扱わない。	・具体的に記述しない
実施主体について、「国道 16 号バイパス無料化」は NEXCO 中日本、「国道 16 号の機能強化」は国ではないのか。	市以外の関係機関が関わる事業については、関係機関と調整の上、表現を修正する。	第 4 章 リニア中央新幹線の整備効果を活かす取り組み強化
「リニア中央新幹線」関係施策については、モノレールの延伸やバス路線強化など、もっと充実できないか。	現時点では、これまで十分な議論がされていないため、将来のまちづくりのあり方をふくめ、機会をとらえ研究していく。	・記述は変更しない
J R 八王子駅北口に自動車アクセスできないことについて検討ができないか。	・マルベリーブリッジの延伸、JR 八王子駅北口駅前広場改善の中で検討を進める。	第 4 章 JR 八王子駅周辺の歩きやすい交通環境の創出

■ P D C A マネジメントサイクルについて

意見	考え方	計画への反映箇所
今後、10年に一回だけ評価・検証を行うのであれば、PDCAのサイクルにならないのではないか。	モニタリングは95の施策進捗状況、目標の達成状況について毎年行う。表現が誤解を招かないよう修正する。	第5章 PDCA マネジメントサイクルによる計画の推進
PDCAのサイクルがどういう視点で見直すのかなど明確でない。絶対値としてどの水準まで行けばいいのか、変化率としてどの程度上昇すればいいのかなど、それらを議論する場はあるのか。	PDCA マネジメントサイクルを運用する中で、必要に応じて市民の意見を反映する場を設けることも検討する。	継続的に検討
交通上、問題になっている箇所を市民から指摘してもらえそうな仕組みを作ることはいかないか。		

■ モニタリング指標について

意見	考え方	計画への反映箇所
モニタリング指標の満足度については、対象者は誰になるのか。詳しく記載すべき。	出典は、「市政世論調査」で、対象者は市民3,000人である。出典を記載する。	第5章 モニタリング指標
都市部と過疎部では、便利さも異なっている。別々に指標設定できないか。	基本目標3などは、中央地域に限定したアンケート調査の指標を設定している。 指標については、現時点で一定の指標を設定するが、計画期間内で必要に応じて新たな指標を設定することも検討する。	継続的に検討
インプット指標と、アウトプット指標を比較すると、アウトカム指標が多いように感じる。もう少し議論が必要ではないか。	アウトプット指標により事業の進捗をチェックし、市民生活がどのように変わったのか、というアウトカムを評価するという考え方で整理した。 指標については、現時点で一定の指標を設定するが、計画期間内で必要に応じて新たな指標を設定することも検討する。	継続的に検討

これまでの検討委員会における意見の反映（第 1 回～第 4 回）

第 1 回 検討委員会
第 2 回 検討委員会
第 3 回 検討委員会
第 4 回 検討委員会

平成 25 年 11 月 26 日（火）
平成 26 年 1 月 28 日（火）
平成 26 年 3 月 26 日（水）
平成 26 年 9 月 19 日（金）

■交通の現状分析について

○交通動向について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・パーソントリップ分担率の平成 10 年と 20 年の比較では、鉄道利用が増え、自動車が減っているが、何故鉄道を利用し、駅までどのような交通手段か、もう少し分析が必要ではないか。</p>	<p>・今回実施しているパーソントリップ調査等の範囲で分析できる内容については、因果関係を整理する。</p> <p>・今回の明らかできなかった分析については、機会をとらえ引き続き研究していく。</p>	<p>第 2 章 2. 交通特性</p>

○拠点間の動きについて

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・市内の地域間の動きは、具体的にはどのような交通があるのか。</p>	<p>・例えば、八王子駅周辺へは、朝夕は通勤・通学の利用が多く、昼間は買物が多いと考えられる。今後は八王子インター周辺では物流拠点が予定されているため、就業、物流等が考えられるなど、拠点間は時間帯や場面により様々な交通が行き来すると考えられる。</p>	<p>・第 2 章 2. 交通特性</p>
<p>・拠点を位置付けると、拠点間を結びたくなるが、利用者がいなければ結んでも仕方ない。これまでの分析でわかったことはあるか。</p>	<p>・例えば、四谷地区から北野駅方面の動きはあまりみられない。八王子駅周辺を都市中心拠点とした動きや、産業拠点への通勤・通学、物流等がみられる。</p>	

○鉄道駅周辺の居住動向について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・八王子の場合、駅周辺に住んでいる発想はあまりないと思う。八王子駅周辺は確かにマンションが建ち始め増えているが、西八王子駅は増えている形跡がない。</p>	<p>・今回実施している調査の範囲で分析できる内容については、因果関係を整理する。</p> <p>・今回の明らかできなかった分析については、機会をとらえ引き続き研究していく。</p>	<p>・第 2 章 1-1. 人口動態</p>
<p>・駅周辺に住宅地が集積するのは望ましいが、めじろ台では人口が減少して、空き家が増え、管理できていない。土地の分割ができず、不動産を転売できない状況が起きている。</p>		

<p>・駅周辺を歩ける街にするためには、市が郊外部の家を買い上げ、それを元手に駅周辺に住んでもらうことはできると思うが、予算がない。歩ける街づくりは望ましいが、議論の入口論で詰まってしまう。</p>		
---	--	--

■ 計画の視点について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・本市が広域交通の要衝地であることを活用した、施策展開ができないか。</p>	<p>・「都市交通の将来像」の中で、交通要衝地であることを示し、広域的な交通利便性を活かした施策展開を研究していく。</p>	<p>第4章 1. 施策体系 「基本目標 1」 「都市交通の将来像」</p>
<p>・ハード整備が完了しつつある中で、今後どのように維持管理していくか、市民の視点で考えることが必要ではないか。 (例えば2月の大雪で、どのような優先順位で除雪を進めるかなど、市民の視点での管理が必要ではないか。)</p>	<p>・バス路線や、利用者の多い路線の優先度を上げて除雪するなど、国、都、市、事業者の連携は必要と思われる。 ・特に、非常時に市民の視点で、各道路管理者が連携して維持管理できるよう機会をとらえ連携のあり方について研究していく。</p>	<p>・第5章 3. 協創の考え方</p>
<p>・高齢化の進展や自動車交通の減少が予想される中で、交通政策の見直しが必要ではないか。(例えば、自動車交通が減った分、車線数を減らし、一方通行やゾーンの規制により歩行者や自転車に優しい道にするとか、道路整備だけでなく、利用する観点で施策を整理してはどうか。</p>	<p>・今回実施している調査においては、自動車交通が減少するという明確な結果は得られていない。 ・そのため、自動車交通減少を前提とした議論は現時点で難しい状況であるが、今回の明らかできなかった分析については、機会をとらえ引き続き研究していく。</p>	<p>・第2章 2. 交通特性</p>
<p>・交通事故は高齢になるほど増加しているが、自動車自粛を掲げるなら、様々な施策と連動して考えてはどうか。</p>	<p>・高齢者の交通事故抑制施策については、即効性のある解決策は、簡単には得られてない状況である。高齢者向けの交通安全教室などにより、地道に安全教育をすすめ、事故の減少を目指していく。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「交通安全対策の推進」</p>
<p>・高齢者にとって1～2km歩くのは大変であるが、運転免許証の返納を積極的にすすめる施策は疑問が残る。</p>	<p>・高齢者運転免許自主返納については、警察が取り組んでいる事業である。 ・今後とも関係所管と連携しながら、長期的視点で高齢者の移動確保に関する方策とあわせて研究していく。</p>	<p>・具体的に記述しない</p>
<p>・高齢者の移動が増える中で、具体的に高齢者に計画への反映方針した交通をどうするのか明確にしてはどうか。</p>	<p>・計画全般を通じて、高齢化社会の到来を前提とした内容となっている。 ・例えば高齢者の移動を支援するため、バスの利便性の向上を図るとともに、高齢者の交通事故抑制施策をすすめる。また、中心市街地に外出しやすいように歩きやすい環境づくりやバリアフリー施策を行っていく。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」 「交通安全対策の推進」</p>

■ 計画の視点について

意見	考え方	計画への反映箇所
・人口減少・高齢化社会をふまえ、国土交通省ではコンパクトシティとネットワークを主軸においた国土のランドデザインを示している。本計画は、この方針をふまえたものとなっているか。	・指摘内容を踏まえた計画とするため大前提として序章に加えた。	・序章 1.計画策定の背景
・平成27年に移行する「中核都市」をもっと打ち出した方がよい。	・指摘内容を踏まえた計画とするため大前提として序章に加えた。	・序章 1.計画策定の背景
・公共交通・自動車・自転車・歩行者とは別の視点から、福祉や観光の視点についても検討が必要である。ユニバーサルデザインは全ての交通に関わるものであるため、うまく整理する必要がある。	・ユニバーサルデザインの観点から、様々な主体別の移動を整理する。	第5章 4 各主体から見た、将来の交通の姿
・今後はバス交通を中心に考えるということだと認識したが、「誰もが利用しやすい」といった抽象的な表現ではなく、具体的にどんなバスをどこに導入すると表現した方が特色が出るのではないか。	バス運行の内容は次年度以降に具体的な内容を検討する。	・継続的に検討

■ 計画内容に対する提案

○ 多摩都市モレール

意見	考え方	計画への反映箇所
・多摩都市モレールの導入について検討して頂きたい。	<p>・軌道系交通については、本市の地域間の連携強化や地域の利便性の視点から、事業の早期実現が望まれているが、事業費や採算性などから非常に難しい状況である。</p> <p>・今後は八王子ビジョン 2022 や都市計画マスタープランなどで示されている、周辺のまちづくりや事業費等の問題を含め、長期的な視点で取り扱いについて検討するとともに、早期事業化に向け、関係機関へ働きかける。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「地域間のアクセス性を高める地域間公共交通」</p>
・現行計画の四谷方面へのモレール導入は、進展しておらず、西部地域は、陸の孤島になっている。		
・北部には鉄道が全くない。現状で道路拡幅や、路線バス増加など難しく、京王八王子駅から地下でサマーランド方面を連絡するなど、北部エリアにモレールや地下鉄等を導入してはどうか。		

○ 鉄道

意見	考え方	計画への反映箇所
・一般的にバス利用圏は3～500mで、鉄道は1km程度だが、JRの駅間距離は長い。鉄道中心のまちづくりを目指すなら、八王子駅と西八王子駅間に駅をつくる議論も面白いかもしれない。	・新駅の必要性については、これまで十分な議論がされていないため、将来のまちづくりのあり方をふくめ、機会をとらえ研究していく。	・具体的に記述しない

<ul style="list-style-type: none"> 中央線の連続立体化と八高線のシームレス化については、この検討会でも是非取り上げてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> JR 八高線と JR 横浜線の連結化により、駅構内の混雑緩和、乗降客数の増加、ターミナル駅としてのポテンシャル向上が期待できるため、連結化に向け関係機関と検討をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 章 1. 施策体系 「鉄軌道系交通網の機能強化」
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道は沿線地域と一緒にあって、沿線ブランドの向上が重要だと考える。鉄道会社から、駅利用者数は最新のデータを出す事も可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通だけではなく、まちづくり全体を含めた取り組みとなるため、今後、計画を推進する中で関係機関と情報交換を行い長期的な課題として研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に記述しない
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道は、ブランドづくりだけでなくプラスαの施策が必要ではないか。 		

○広域交通網

意見	考え方	計画への反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通だけでなく、市外との交通の議論も必要ではないか。（周辺の自治体との連携した検討などを考えたらどうか。） 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の中央道、圏央道をはじめ、八王子南バイパス、北西部幹線道路、さらにリニア新幹線などの整備が進められている。 周辺自治体との連携については、必要に応じて調整を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 第 4 章 1. 施策体系 「防災・物流・医療ネットワークに資する広域交通網の充実」
<ul style="list-style-type: none"> 国では国道 20 号バイパスを整備しており、車の分散を目指している。圏央道の整備率はここ数年で 9 割となり、やっと利用して頂ける状況になった。今後は IC からのアクセスや、拠点整備とあわせて利用して頂けると、新たな交通の流れができると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> 第 4 章 1. 施策体系 「防災・物流・医療ネットワークに資する広域交通網の充実」
<ul style="list-style-type: none"> 相模原市はリニアが整備されるが、八王子はバスでリニアに向かう流れという考えもあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で、リニア新駅が予定されている橋本駅から直接八王子駅を結ぶ、バス路線がないが、今後リニア新駅の近接している八王子の利便性を活かす取り組みの一つとして、機会をとらえ実現可能性や、集客の可能性について研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的に記述しない。
<ul style="list-style-type: none"> 「交通結節点の機能を高める交通体系」として、都市マスで示されている広域的な交通結節機能を高め、企業誘致に結ぶ、リニア新幹線と連携し集客する機能をどう実現するのか議論してはどうか。 		<ul style="list-style-type: none"> 第 4 次事業化計画については、整備の必要性を整理し、関係機関と調整しながら、優先的に整備を進める道路について設定することとする。
<ul style="list-style-type: none"> 都では都市計画道路を対象に、第 3 次事業化計画を進めており、平成 28 年度からは第 4 次事業化計画を予定している。広域交通網として効果の高い区間について、市とも相談しながら検討したい。 		

<p>・交差点部の改良についても、交通の流れや安全性という観点で検討している。</p>	<p>・都や市が実施している交差点すいすい事業について、整備の必要性を整理し、関係機関と調整しながら、優先的に整備を進める交差点について設定する。</p>	<p>・第 4 章 1. 施策体系 「地域の円滑な交通流動性の確保」</p>
<p>・中央道は、昨年、渋滞対策検討ワーキングで、渋滞発生個所や原因を分析し、対策を検討しているが、一方で、財政状況も厳しく、人口も減少する中で、新たな道路ネットワーク整備は難しく、既存の中央自動車道の機能強化など、引き続き対策を検討していきたい。</p>	<p>・中央道だけではなく、首都圏道路ネットワークの利便性の向上は、道路ネットワークの機能を発揮するために重要だと考える。 ・市としても、首都圏道路ネットワークの利便性に向けた取り組みが進められるよう、要望活動を通じて要請していく。</p>	<p>第 4 章 1. 施策体系 「防災・物流・医療ネットワークに資する広域交通網の充実」</p>

○路線バス

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・延長が長いバス路線は、定時性が確保できず、座れない等の不満が重なり、バス離れの遠因になる。</p>	<p>・利便性の悪い路線設定などについては、必要に応じて、バス事業者などと協議しながら公共交通ネットワークの再編検討を進めていく。</p>	<p>・第 4 章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」</p>
<p>・路線延長が長いバスについては途中に、小さなバスターミナル等を整備したかどうか。</p>		
<p>・路線バスは長くなる程、利用者が減るといデータを整理してはどうか。</p>		
<p>・バスで移動する場合、運賃が高く、乗換え運賃などが高いのはやむを得ないが、高いと思う。</p>		
<p>・バスの乗り継ぎが上手いかわなく、値段も高いという課題があり、悩ましい課題であるが、一日乗車券、金額式の I C 定期券などの取り組みを行っている。</p>		
<p>・バス運賃は、日本は独立採算制度を守っているため、難しい面もある。</p>		
<p>・市内の、鉄道やバスを 1 回の料金で移動可能な仕組みは、どこかに事業者がコントローラーを設置し、オペレーションすれば可能であるが、何かを選択するという意思決定が必要だ。</p>		
<p>・市内のバス路線は、八王子駅へ一極集中させずに、周辺を走るバスがあってもよいと感じる。</p>		
<p>・路線バスは、駅を中心に放射状に配置されており、はちバスでは周辺施設を一部カバーしているが、採算性をふまえ議論できるとよい。</p>		

<p>・八王子駅北口周辺から富士森公園へバスで行く時や、逆に南口周辺からいちようホールへ行く場合、乗り継がないと行けないため、1本で行けるようなバスが運行されたら良いのではないかな。</p>	<p>・市民から要望が多く、事業性が見込まれる路線についてはバス事業者などと協議しながら公共交通ネットワークの再編検討を進めている。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」</p>
<p>・八王子駅へのルートは陣馬街道から甲州街道ではなく、北大通りを通って欲しい。</p>		
<p>・高齢者はバスを立って待つことも苦痛だと思う。高齢化が進む中でバスを待つ人たちへの対応が必要ではないかな。</p>	<p>・バス停留所のベンチなどは高齢者の外出支援につながることから、市が関係機関との調整を行い、設置できるよう努めていく。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」</p>
<p>・仙台市では、市営バスと民間バス、地下鉄が協働で割引し、地下鉄では民間交通の宣伝や乗継情報も提供している。浜松市でも、デパートの買物客に帰りの切符を配布するなど、工夫している。</p>	<p>バスの利用促進策の手法の一つとして今後研究していく。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」</p>
<p>・バスをメインに移動する都市は特徴だと思う。都内でも取組んでいる自治体は少ないため、都市計画と結び付けてビジョンを示してはどうか。</p>	<p>・第2次都市計画マスタープラン「拠点・沿道ネットワーク型」都市構造を実現するため、沿道のバス路線網の充実を進めていく。</p>	<p>・第3章 2-2. 公共交通のめざすべき姿</p>

○乗合タクシー等

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・高齢化社会が進む中で、バスが利用できない方はタクシーを乗合で利用できるように、各地域にタクシーの乗合所等が出来ればよいと思う。</p>	<p>・交通空白地域や山間地などにおいて、主に自家用車を持たない高齢者の移動手段を確保する目的で地域の方々が中心となって実施する地域公共交通事業を進める。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「だれもが不便なく移動できるバス路線網の整備」</p>
<p>・これまで公共交通利用者数は右肩上がりだったが、今後は山間部などでタクシー等を上手に使うことも必要ではないかな。</p>	<p>・乗合タクシーについても選択肢の一つとする。</p>	
<p>・若者の自動車離れが進み、今後は買物難民が増えるのではないかな。西部地域は人口減少が進み小さい交通を多角的に考える必要があるのではないかな。</p>		

○自転車

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・観光分野でも自転車をもっと活用してはどうか。</p>	<p>・現時点では、これまで十分な議論がされていないため、将来のまちづくりのあり方をふくめ、機会をとらえ研究していく。</p>	<p>・具体的に記述しない</p>
<p>・交通機関を自転車に移行する提案ができるなら、予算を付けて自転車走行空間を確保する必要がある。</p>	<p>・安全で快適な自転車利用環境を創出するためには、自転車走行空間の確保は重要である。様々な手法による自転車走行環境の整備を推進する。</p>	<p>・第4章 1. 施策体系 「自転車ネットワークの整備」</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・自転車が上手ではない人が車道を走ると、車の運転者も大変だ。自転車道など早急に始めてはどうか。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・南大沢では自転車走行空間の社会実験をしているが、規制区間を拡大してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南大沢の実証実験については、実験結果をふまえ、他地区や周辺地域への拡大の可能性について研究していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 章 1. 施策体系 「自転車ネットワークの整備」
<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の交通マナーを守ってもらうことも検討してほしい。 ・警察を増員して規制すると品がない都市になる。アイデアを出して工夫してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の交通事故抑制施策については、即効性のある解決策は、簡単には得られていない状況である。自転車安全教室などにより、地道に安全教育をすすめ、事故の減少を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 章 1. 施策体系 「交通安全対策の推進」

○バリアフリー

意見	考え方	計画への反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> ・前回計画ではユニバーサルデザインのまちづくりという表現が後退しているように見受けられる。 ・ユニバーサルデザインの交通体系を前提にしないと、方向性として高齢化に向かないので検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従前のバリアフリーは、健常者の使用が前提で整備されてきた社会資本整備について、社会の中で多様な方々に目を向け、まずはバリアを無くしてきたが、次のステップとしてユニバーサルデザインという考えになってきたと思う。 ・今後はユニバーサルデザインの考え方が重要になるので、本計画でも反映する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 章 1. 施策体系 「交通バリアフリー環境の充実」
<ul style="list-style-type: none"> ・建物等を建設する時、若い人だけの発想で整備すると、年を取って不自由にならないと気が付かないこともあるため、60歳以上の方を対象にした会議を開催してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、「八王子市交通バリアフリー情報交換会」を必要に応じて開催しており、障害者団体や高齢者団体にも参画して頂いている。 ・新たに年齢別の会議の開催については、上記情報交換会の中でも議論し、方向性を出す必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に記述しない

○生活道路

意見	考え方	計画への反映箇所
<ul style="list-style-type: none"> ・防災をキーワードとして、防災と交通を結び付ける必要があるのではないかと。（例えば、生活道路は、人や自転車の安全確保だけでなく、延焼を防ぐ効果もある。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路は、防災面で支障をきたしている幅員 4mに満たない道路の整備など、防災面からも重要である事を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 章 1. 施策体系 「生活道路の安全性・利便性の向上」
<ul style="list-style-type: none"> ・幅員が狭く消防車が入れない道路などについて、この計画で取り扱うか。 生活道路については粛々と進めているが、もっと積極的に行った方が良いのか。 住宅地の場合 30 km/h までとか、中心市街地内は 10～15 km/h とか、走っても良いが、条件を付けるとか、トライすることで知恵が出てくると思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・第 4 章 1. 施策体系 「生活道路の安全性・利便性の向上」

○個別交通問題

意見	考え方	計画への反映箇所
・八王子駅南口の観光バスの路上駐車については、道路拡幅などを検討してはどうか。	・個別の整備については、道路整備及び管理の中で計画への反映方針するものとする。	・第4章 1. 施策体系 「中心市街地の歩きやすさとにぎわいの創出」
・八王子署管内ではひよどり山周辺の工事に伴う、ダンプが増加している。今後イオンの整備等がある中で、ダンプの重大事故の発生が懸念されるため、ダンプ対策も必要ではないかと考えている。		・第4章 1. 施策体系 「拠点のターミナル機能の充実」
・JR八王子駅北口への一般車の乗入れができるようにしてはどうか。		・第4章 1. 施策体系 「中心市街地の歩きやすさとにぎわいの創出」
・八王子駅、西八王子駅で、車椅子がタクシーに乗る際、段差が無いように見直してはどうか。		・第4章 1. 施策体系 「交通バリアフリー環境の充実」
・甲州街道の大和田橋周辺のバス専用レーンは交通渋滞の原因となるため、警察は見直しを検討している。		・バス専用レーンについては、路線バスの速達性、定時性を確保する上で有効と考えられるので、その運用について、引き続き関係機関と協議をすすめる。

○関連分野との連携（福祉・観光等）

意見	考え方	計画への反映箇所
・リニア新幹線・橋本駅と富士山の近接する高尾山について、地域の交通にプラスして、海外からの来訪者も増やすという視点も必要ではないか。	・交通だけではなく、観光政策を含めた取り組みとなるため、今後、計画を推進する中で関係機関と情報交換を行い長期的な課題として研究していく。	・具体的に記述しない
・高尾山の観光客は市内の観光巡りをするにも動きが取れない。市内の観光地を巡るプランや、マイクロバスの運行などのアイデアもあるのではないか。		
・市内の観光スポットを一日で廻れない場合、今は色々な媒体で情報を得られるため、情報が無いのと同じではないか。交通だけではカバーできないが、今後整理してはどうか。	・現時点では、これまで十分な議論がされていないため、将来の情報発信のあり方をふくめ、機会をとらえ研究していく。	・具体的に記述しない。

<p>・高尾山の来訪者を中心市街地に連れてくることや、それ以外の魅力を活かし、いかにお客様を引き込むか。地域としてのスポットや、行事などをしっかりと体系化し、もう少し発信力も含め、整備していく段階ではないか。</p>		
<p>・高尾山のケーブルカーの乗り場が満杯で待っている間、近くにある武蔵陵や南浅川の桜、多摩森林公園などにも行ってもらえるようなミニミニ観光を行ってはどうか。</p>		
<p>・高齢化社会が進み、バスを利用できない方に対して、タクシーを乗合で病院へ行くという施策を行っている地方都市もある。この計画でも福祉政策と絡めた提言も必要ではないか。</p>	<p>・福祉交通施策（リフト付自動車の利用、タクシー・ガソリン費助成金交付、介護タクシー、福祉有償運送、福祉センター送迎バスなど）については、福祉施策として本計画に反映する。</p>	<p>・第4章 ・基本目標2 福祉交通の充実に整理</p>

■ 施策内容について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・主に駅に向かう道路について、高齢者が歩きやすく、自転車も運転しやすい道づくりを進めるべきである。</p>	<p>・長期的な視点から、様々な主体にとって便利のように合意形成を図る</p>	<p>・継続的に検討</p>
<p>・道路や橋梁の老朽化の視点が必要である。老朽化した橋梁が多くあるので、早急に対応するべきである。</p>	<p>・指摘のとおり道路や橋梁の更新について記載した。</p>	<p>基本目標4 更新時期を迎える道路・橋梁等の効率的な維持管理</p>
<p>・JR 八王子駅と京王八王子駅の利便性を高める方向性が必要である。</p>	<p>・JR 八王子駅と京王八王子駅間の連携の問題は、計画期間内に実現することが難しい問題であるため、長期的な視点に立って、継続的に検討を行う。</p>	<p>・継続的に検討</p>
<p>・JR 八王子駅北口については、これまで何度も議論してきているが、もう少し改造するという表現に踏み込めないか。産業交流拠点整備が進むと今の駅前広場はパンクする可能性がある。</p>		
<p>・JR 八王子駅と京王八王子駅の利便性については、京王駅から地下通路を伸ばし、今後再開発がおこなわれる産業交流拠点の広場に直通させるといった案も考えられる。本計画の中にはより具体的に施策を記載すべきである</p>		
<p>・JR 八王子駅と京王八王子駅を明神町に移転させたらいいのではないか。</p>		
<p>・リニア新幹線の整備にあたって、人の動線の変化について予測しているはずである。そうしたデータを活用できないか。</p>		

<p>・情報化の視点が欠けているので、盛り込んだ方がよい。技術発展に伴い、情報の記録、計算・交換が極めて安価にできるようになった。今後はリアルタイムでの計測のコストが下がるはずである。交通を需給関係で見ると、時間と場所が一致しないと意味がない。需要と供給を結ぶものとして、情報技術の活用が考えられる。</p>	<p>・指摘のとおり情報化の観点から施策を整理した。</p>	<p>基本目標 2 使いやすい移動情報の充実</p>
--	--------------------------------	--------------------------------

■これまでの事業の評価について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・これまでの事業で上手くいったところ、上手くいっていないところを明確に評価したうえで、今後のビジョンを整理することが必要ではないか。</p>	<p>・既存施策を検証評価した上で、現時点の社会情勢に照らし、新たな施策として位置付けることとする。</p>	<p>・検討会配布資料 「資料 2-2」 「資料 2-3」として整理 ・第 4 章 1. 施策体系に反映</p>

■計画の進行管理について

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・検討会で示されたデータが今後、どのように変えていくのか目標を定量的に示してはどうか。</p>	<p>・アウトカム指標やアウトプット指標などにより計画を実施した効果などを可能な限り定量化する。</p>	<p>・第 5 章 2. モニタリグ指標の設定</p>
<p>・利用者の視点として、主にソフト面にウエイトを置き、市民に評価して頂くことも大切だと思う。</p>		<p>・第 5 章 2. モニタリグ指標の設定</p>
<p>・計画を推進するにあたって、予算の担保性をどのようにとるのか。</p>	<p>・本計画に基づき事業を推進していく、今後は予算と連動させて、実行していくことになる。 ・また、今後はチェックする仕組みも考え、実行できるように考えていきたい。</p>	<p>・第 5 章 1. PDCA マネジメントサイクルによる計画の推進</p>
<p>・本検討会で示した意見は、予算化までするのか。マスタープランが出来上がった段階でどう活かすのか。</p>		<p>・第 5 章 1. PDCA マネジメントサイクルによる計画の推進</p>

■その他

意見	考え方	計画への反映箇所
<p>・ユニバーサルデザインはバリアフリーを内包する概念であるため、用語をユニバーサルデザインに統一すべきである。</p>	<p>・指摘のとおり修正した。</p>	<p>全体</p>
<p>議事録については、要望ではないので「〇〇してほしい」ではなく、提言の形にしていきたい。</p>	<p>・指摘のとおり対応する。</p>	<p>資料 3</p>